

|          |   |          |          |
|----------|---|----------|----------|
| 氏名       | 安藤尚子  |          |          |
| 学位(専攻分野) | 博士(医学)  |          |          |
| 学位授与番号   | 博乙第2387号  |          |          |
| 学位授与の日付  | 平成4年3月28日   |          |          |
| 学位授与の要件  | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第4条第2項該当)  |          |          |
| 学位論文題目   | 高速液体クロマトグラフィーを応用した性ステロイドホルモン全自動測定システム<br>(dehydroepiandrosterone sulfate負荷試験の胎児胎盤機能評価における有用性) |          |          |
| 論文審査委員   | 教授 産賀 敏彦  | 教授 佐伯 清美 | 教授 清野 佳紀 |

### 学位論文内容の要旨

高速液体クロマトグラフィー自動分析装置を用いて妊婦血清中のestradiol ( $E_2$ ), estrone, progesterone (P),  $20\alpha$ -hydroxyprogesteroneのプロフィール分析をおこない、dehydroepiandrosterone sulfate (DHAS) 負荷試験の胎児胎盤機能評価における有用性を検討した。

妊娠中期の無脳児群は、正常群に比較し負荷前 $E_2$ 低値で負荷後に高い増加を示した。妊娠後期の子宮内胎児発育遅延 (GR群)、妊娠中毒症 (TO群) の負荷前 $E_2$ 値は、正常 (LN群) よりも低値で負荷後高い増加を示した。これらの成績はDHAS負荷に対する胎盤予備能を反映した結果でなく胎児側よりのDHASの供給不足を反映した結果と考えられた。また子宮内胎児発育遅延を合併する妊娠中毒症 (TO+GR) の負荷前 $E_2$ 値はLN群より低値で、負荷後の増加は余りみられなかった。 $E_2/P$ 比の検討でGR群はLN群に比較し負荷後低値であったのに対し、TO+GR群は同レベルを示した。これはTO+GR群は $E_2$ だけでなくPも低値を示したため、胎児側からのDHAS供給だけでなく胎盤機能も低下した状態のためと考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は性ステロイドホルモンの分析とその応用に関する研究であるが、高速液体クロ

マトグラフィーによる各種ステロイドホルモンの全自動分析によって、デヒドロエピアンドロステロン硫酸負荷試験による胎児胎盤機能の評価を行って重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。